

平成30年6月1日

会員各位

(一社) 愛媛県臨床検査技師会
会長 高村 好実

平成30年度愛媛県臨床検査学会
ランチョンセミナーAの講師および内容の変更について

謹啓

梅雨の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は技師会活動に格別のご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、既にご案内致しましたとおり、平成30年度愛媛県臨床検査学会においてランチョンセミナーを開催いたしますが、ランチョンA講師のシーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス(株)横山 知子様が体調不良により講演は難しい状態とのことで、講師および講演内容について変更となりますことをお知らせいたします。

既に、ランチョンセミナーの申込みも終了していることから、ランチョンA及びBの選択についてはそのままとさせていただきます。また、当日の変更についても準備の関係上、ご要望に添えないことをご容赦いただけますようお願い申し上げます。

急な変更で申し訳ありませんが、ご理解ご協力をお願いいたします。

謹白

変更内容

(旧)

ランチョンA

演題名：「性差医学・医療」の概要と循環器疾患の性差

講師：横山 知子 (シーメンスヘルスケアダイアグノスティックス株式会社 学術部学術グループグループマネージャー)



(新)

ランチョンA

演題名：『男女で異なるがんの現状』

講師：浅野 寛道 (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社 学術部学術グループ)

「講演概要」

近年、「日本人は生涯において2人1人は何らかのがんに罹患し、3人に1人はがんで亡くなる」と言われています。一方、がん治療の進歩は日進月歩で、いかに早期に発見し適切な治療を受けることができるかはその後の人生を大きく左右する鍵となります。近年、多岐

にわたるがん研究により、がんを引き起こす原因として環境的要因(生活習慣等を含む)、遺伝的要因等が大きく関わっていることがわかってきています。また、男女という観点で考えた場合、各性別独自の臓器(前立腺/乳房/子宮等)やホルモンも大きく影響されます。がんの対策において、早期発見を実現するにははがん検診は重要な要素ですが、日本の現状はまだ課題があると言われていています。今回、日本のがん検診の実情と課題について乳癌検診の実情に例で紹介させていただきたいと思います。

*尚、ランチョンBについての変更はありません。

以上